

平成19年度

第3回

(地域別研修)

**南東欧地域農産物市場経済  
実施要領**

平成19年9月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

## 目 次

1. コース基本情報	1
2. コースの目標	1
3. 到達目標	1
4. 研修プログラム	2
5. 研修員参加資格要件	3
6. 研修実施体制及び運営	4
7. 研修の評価	5
8. 研修付帯プログラム	5
9. 研修・宿泊場所	6
10. その他	6

### 付 属 資 料

- 付表 1 研修員の業務関連情報
- 付表 2 コースカリキュラム (案)
- 付表 3 平成 19 年度日程表 (案)
- 付表 4 年度別受入実績表

## 1. コース基本情報

(1) コース名

和文：(地域別) 南東欧地域農産物市場経済

英文：Area Focused Training Course in Agricultural Production and Distribution for Southeast European Countries

(2) 受入期間

平成 19 年 9 月 9 日 (日) ~平成 18 年 10 月 27 日 (土)

(3) 技術研修期間

平成 19 年 9 月 17 日 (月) ~平成 19 年 10 月 26 日 (金)

(4) 定員、割当国

定 員：9 名 (受入 7 名)

割当国：アルバニア、セルビア、モンテネグロ、マケドニア旧ユーゴスラビア、モルドバ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ウクライナ

## 2. コース目標

南東欧諸国における農産物生産流通に関与する人材に対し、日本の農業生産流通に関する制度的、実用的な知識を習得するとともに農業基盤整備の果たす役割の理解を以って、人材育成に資することを目的とする。

## 3. 到達目標

本研修では講義、視察、討論を通じて、下記の項目を理解し、もって自国の農産物市場経済化にかかせない流通分野の専門家の育成に資することを到達目標とする。

- (1) 日本における農業基盤整備と貿易システムを理解する。
- (2) 日本における農産物市場経済発展のメカニズム (農産物の価格形成と農産物流通) を理解する。
- (3) 市場経済システムのもとでの中央政府、地方自治体、生産団体 (農業協同組合等) の役割を理解する。
- (4) 農産物の市場経済化をすすめる上での自国の問題解決をさぐり帰国後の行動計画を策定する。

## 4. 研修プログラム

### (1) 研修内容

来日後一週間のオリエンテーションの後、帰国までの期間、研修を実施する。主に講義、実習、視察、討論から構成される。

#### ア. コースカリキュラム（付表 2 参照）

本研修では以下のディスカッション内容に重点をおく。参加研修員はディスカッションにより自国における現状や問題点を把握するとともに、問題解決のための方法論を学び具体論策定の一助とする。その成果として研修終了後には、アクションプランを作成し発表する。

- ①第 1 回ディスカッションテーマ：農産物価格形成のしくみ
- ②第 2 回ディスカッションテーマ：農業インフラ整備と政府・地方自治体の役割
- ③第 3 回ディスカッションテーマ：市場経済下における生産者団体の役割
- ④第 4 回ディスカッションテーマ：アクションプラン・プレゼンテーション個別指導

#### イ. ジョブレポート発表会（Job Report Presentation）

##### (ア) 目的

- a. 研修員自身が問題点を再認識する
- b. 研修員相互間で問題意識を共有する
- c. 講師が研修員の業務内容、研修で習得したい技術・知識を理解する

これらの発表を通じ、講師より個々の研修員の期待に対してこの研修でできないことを明確に示す意見交換の場とする。

##### (イ) 発表内容

J/R 発表会において、各研修員は以下の 3 点について主に発表する

- a. 自国でどのような仕事に従事しているのか
- b. その仕事において現在どのような問題を抱えているか
- c. この研修の中で習得したい技術、知識

## ウ. アクションプラン発表会 (Action Plan Presentation)

### (7) 目的

- a. 研修員が帰国後に取り組むべき課題を明確にする
- b. 可能な計画の立案能力向上
- c. 研修結果の資料として利用する

### (1) 発表内容

J/R で提言した問題点、また、研修中に新たに想定された問題点の解決のためのプロジェクトの計画を策定し、その目標達成のための活動計画（アクションプラン）を発表する。（A/P の必要記載事項として、プロジェクトタイトル、解決すべき問題とそれに対するプロジェクト目標、期間、場所、事業主体、活動内容など、についての記述を求める）

### (2) 使用言語 英語

## 5. 研修員参加資格要件

当該コースに関わる General Information 記載条件

- (1) 中央政府及び地方自治体、協同組合の職員で農産物生産流通に関して3年以上の経験を有する者
- (2) 大学卒もしくはそれに等しい学力を有する者
- (3) 原則として45歳以下の者

各コース資格要件

- (1) 所定の手続により割当国政府から推薦されていること
- (2) 十分な英語能力を有すること
- (3) 身体的、肉体的に健康なこと
- (4) 軍隊に服役していないこと

## 6. 研修実施体制及び運営

本研修コースは、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（以下、JICA 帯広）が計画する研修コースの実施に関する業務を、財団法人日本国際協力センター（以下、JICE）に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営するものとし、具体的業務分担は次のとおりとする。

### (1) JICA 帯広

- ア. 研修実施計画書作成（コース目的、到達目標、研修期間など）
- イ. 研修の評価
- ウ. 研修実施予算の執行管理
- エ. 募集要項（G. I.）及び研修実施要領等の作成
- オ. その他

### (2) JICE

- ア. 研修日程表の調整・作成
- イ. 講師、見学先等への連絡・確認
- ウ. テキスト、資料等の手配
- エ. その他

### (3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる技術的助言等

### (4) 研修監理員（Coordinator：CDN）

技術研修期間中、(財)日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員（CDN）を配置し、コース実施・運営の円滑・調整を図る。

- ア. 研修に係る関係者間の連絡調整
- イ. 通訳業務
- ウ. その他

## 7. 研修の評価

### (1) 評価の目的

研修コースの到達目標（1頁参照）に基づき、研修成果の測定、分析を通じてコース終了時に、当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本コースの研修内容の質的改善を図るものとする。

### (2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による個々の研修員の到達目標の達成度把握

イ. 個々の研修員による評価（Questionnaire）

ウ. JICAによる評価

### (3) 評価会

研修終了時に研修員が提出する Questionnaire（JICA 所定の様式による質問書）の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

### (4) 改善検討会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA、コースリーダー、JICE、講師等が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度のコース改善に向けて対応方針を検討する。

## 8. 研修付帯プログラム

### (1) ブリーフィング

研修員来日直後に、JICA 帯広国際センターにおいて実施する。ブリーフィングでは、JICA の業務概要説明及びコース概要、研修員登録、パスポートビザの有効期間確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

### (2) ジェネラルオリエンテーション

JICA 帯広にて実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、経済、教育、政治・行政などの日本事情の紹介を目的とする。

### (3) 日本語講習

研修員は、研修のみならず国際交流事業に役立てるよう、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として10時間の日本語講習を実施する。

#### ブリーフィング・ジェネラルオリエンテーション・日本語講習日程

日 程	内 容
9月10日(月)	ブリーフィング
9月11日(火) 午前	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の社会と日本人」
9月12日(水) 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の政治、行政」「日本の経済」 講義「日本の歴史・文化」「日本の教育」
9月13日(木)	日本語講習
9月14日(金)	日本語講習

## 9. 研修・宿泊場所

独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（JICA 帯広）

所在地：〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

## 10. その他

### (1) 修了証書

この研修を修了した研修員にJICAから修了証書(Certificate)を授与する。

### (2) 研修員の待遇

#### ア. 入国資格

日本で技術研修を受けるために来日する者は研修ビザを取得し、日本滞在中は日本国法規の適用を受ける。

## イ. 滞在費

JICA の規程に基づき、本コースの研修を受けるために必要な手当が支給される。

### (3) 開発教育支援

「開発教育」とは、開発途上国の文化、社会、人々の暮らし、日本との関係などを知ることによって開発途上国に関心を持ち、「貧困問題」や「環境問題」など地球全体の構造的な問題を自分の問題としてとらえ、解決のために自ら行動することが必要であるという認識を広めることを目的として小中学校の教育現場で実施されている。JICA はこの「開発教育」の支援に力を入れており、本研修コースの中に、地域の小中学校や地域住民との相互理解のためのプログラムが含まれている。

コースカリキュラム (案)

		研修項目					時間配分 (%)			
到達目標	課題	講義		視察・実習	討論					
内容・課題	1. 日本における農業基盤整備と貿易システムを理解する。	a. 日本におけるフード・システムの展開	帯広畜産大学 金山教授	0.5			0.5	12.4		
		b. 農村地域の社会資本整備の現状	北海学園大学 北倉教授	0.5						
		c. 補助金と金融制度の概要	帯広畜産大学 澤田教授	0.5						
		d-1. 日本における農業・農村整備事業の経緯	佐々木コースリーダー	0.5						
		d-2. 北海道における農業・農村整備事業の展開	帯広開発建設部帯広農業事務所 濱口氏	0.5						
	2. 日本における農産物市場のメカニズム (農産物の価格形成と農産物流通・物流) を理解する	①日本における農産物の価格形成のシステムについて理解する	農産物の流通機構と支援政策	帯広畜産大学 仙北谷助教授	0.5	生鮮食品の市場 (帯広地方卸売市場)	0.5	0.5	37.2	
			農業生産資材の流通と価格形成制度	北海道大学 長南教授	0.5	東京都中央卸売市場・大田市場	0.5			
			野菜流通の現状と課題	酪農学園大学 尾崎教授	0.5	京都市中央卸売市場	0.5			
						生鮮食品の流通の実態 (ダイイチ)	0.5			
						市場流通情報の収集と配信 (全国生鮮食料品流通情報センター)	0.5			
②日本の農産物流通における生産者団体 (農協) の役割を理解する		生産者団体の役割 (農協による経済事業)	JA帯広市川西	0.5	農協事業による生産出荷 (細野ファーム)	0.5				
		農畜産物価格および営農にかかわる情報の流れ・種類	帯広畜産大学 樋口教授	0.5						
		農業情報システムの役割	十勝農協連 福井氏	0.5						
		③日本における農産物の物流システムについて理解する	十勝の農産物の物流の現状	ホクレン 北村氏	0.5	十勝の農産物の鉄道輸送 (JR北海道)	0.5			
						農畜産物のトラック輸送 (樺北運輸)	0.5			
3. 市場経済システムのもとで中央政府、地方自治体、生産者団体 (農業共同組合等) の役割を理解する	①地方自治体の役割を理解する	北海道における営農支援システム	北海道地域農業研究所 黒澤氏	0.5			0.5	33.1		
		帯広の歴史と農業の概要、農家を取り巻く行政組織と生産者団体	十勝毎日新聞社 東條氏	0.5						
		農業改良普及センター	農業改良普及センター	0.5						
	②生産者団体 (農協) の役割を理解する	生産者団体の役割 (農協による信用事業)	JA帯広市川西	0.5	農協の販売関連施設 (川西長いも調整施設等)	0.5				
		生産者団体の役割 (農協による営農指導)	JA帯広市川西	0.5						
		生産者団体の役割 (農協による加工事業・マーケティング手法)	JA士幌町 丸山氏	0.5	士幌町農協記念館、加工関連施設	0.5				
		生産者団体の役割 (土壌・肥料・飼料の分析)	十勝農協連 柴田氏	0.5						
		欧州と日本の農業協同組合の比較	三重大学 石田教授	0.5						
		京滋地方における水利施設	龍谷大学 稲本教授	0.5	土地改良区による水利施設利用	1.0				
		安全で持続可能な農業のための販売実践		0.5						
4. 農産物の市場経済化をすすめる上で自国の問題点を認識する	①自国における問題点を認識する	南東欧諸国の市場経済化と農業構造	明治学院大学 阿部教授	1.0	ジョブレポート発表	0.2	0.5			
							0.5			
	②自国での行動計画を策定する				アクションプラン・プレゼンテーション資料作成	0.5				
					アクションプラン発表準備	0.5				
				アクションプラン発表	1.0					
時間配分 (%)				50		40	10	100		

平成19年度日程表(案)

月日	曜日	時間		担当者	受入機関(所属)	実施場所
9/9	日			来日		
9/10	月			フリーフィング		
9/11	火			ジェネラルオリエンテーション		
9/12	水			ジェネラルオリエンテーション	(社)北方圏センター	帯広国際センター
9/13	木			日本語研修		
9/14	金			日本語研修		
9/15	土			休日		
9/16	日			休日		
9/17	月			休日(敬老の日)		
9/18	火	9:00-9:30		市長表敬		帯広市 帯広市役所
		13:00-14:00		コースオリエンテーション	佐々木 市夫	帯広畜産大学 帯広国際センター
		14:00-16:30		ジョブレポート発表会		帯広国際センター
		16:30-17:00		懇親会		帯広国際センター
9/19	水	10:00-12:00	講義	日本におけるフード・システムの展開	金山 紀久	帯広畜産大学 帯広国際センター
		14:00-16:00	講義	野菜流通の現状と課題	尾崎 亨	酪農学園大学 帯広国際センター
9/20	木	10:00-12:00	講義	補助金と金融制度の概要	澤田 学	帯広畜産大学 帯広国際センター
		14:00-16:00	講義	北海道における営農支援システム	黒澤 不二男	(社)北海道地域農業研究所 帯広国際センター
9/21	金	10:00-12:00	講義	日本における農業・農村整備事業の経緯	佐々木 市夫	帯広畜産大学 帯広国際センター
		13:30-16:30	講義	アクションプラン作成指導		
9/22	土			休日		
9/23	日			休日		
9/24	月			祝日(秋分の日)		
9/25	火	10:00-12:00	講義	十勝の農産物の物流の現状		帯広国際センター
		14:00-16:00	見学	十勝の農産物の鉄道輸送(JR北海道)	北村 正一	ホクレン帯広支所輸送課 JR貨物ターミナル
9/26	水	10:00-12:00	見学	生乳の加工と輸送システム(よつ葉乳業)	若原 邦彦	よつ葉乳業(株) 十勝主管工場 よつ葉乳業(株)
		14:00-16:00	見学	農畜産品のトラック輸送((株)北海運輸)	駒月 義勝	(株)北海運輸 (株)北海運輸
9/27	木	10:00-12:00	講義	農業生産資材の流通と価格形成制度		
		13:30-16:30	討議	ディスカッション① 農産物価格形成のしくみ	長南 史男	北海道大学 帯広国際センター
9/28	金	10:00-12:00	講義	北海道における農業・農村整備事業の展開	濱口 大志	帯広開発建設部帯広農業事務所 帯広国際センター
		14:00-16:00	講義	農村地域の社会資本整備の現状	北倉 公彦	北海学園大学 帯広国際センター
9/29	土			休日		
9/30	日			移動(帯広⇒京都)		
10/1	月	9:00-11:00		京滋地方における水利施設	稲本 志良	龍谷大学 大阪国際センター
		午後		移動(OSIC⇒京都)		
10/2	火	午前		見学 京都中央卸売市場		京都青果合同株式会社 京都中央卸売市場
				講義 安全で持続可能な農業のための販売実践		(社)京のふるさと産品価格流通安定協 JAグループ京都
10/3	水	全日		見学 野洲川土地改良区による水利施設利用		野洲川土地改良区 野洲川水利施設等
10/4	木	午前		移動(京都⇒東京)		
		14:00-16:00	見学	市場流通情報の収集と配信	野村 俊生	(社)全国生鮮食料品流通情報センター 全国生鮮食料品流通情報センター
10/5	金	10:00-15:30	講義	南東欧諸国の市場経済化と農業構造	阿部 望	明治学院大学 国際総合研修所
10/6	土	7:00-9:00		見学 大田市場		中央卸売市場大田市場 大田市場
				移動(東京⇒帯広)		
10/7	日			休日		
10/8	月			休日(体育の日)		
10/9	火	5:30-10:00	見学	生鮮食品の市場(帯広地方卸売市場)	日下 和彦	帯広地方卸売市場株式会社 帯広地方卸売市場
10/10	水	10:00-12:00	講義	農産物の流通機構と支援政策	仙北谷 康	帯広畜産大学 帯広国際センター
		14:00-16:00	講義	帯広の歴史と農業の概要、農家を取り巻く行政組織と生産者団体	東條 隼士	十勝毎日新聞社 帯広国際センター
10/11	木	10:00-12:00	見学	生鮮食品の流通の実態(ダイイチ)	倉本 三千男	株式会社ダイイチ 株式会社ダイイチ白樺店
		14:00-16:00	講義	地産地消運動への取り組み	貫田 康秀	JAめむろ ファーマーズマーケット T:62-2311 F:62-6591
10/12	金			学校訪問		
10/13	土			休日		
10/14	日			休日		
10/15	月	10:00-12:00	講義	欧州と日本の農業協同組合の比較	石田 正昭	三重大学
		13:30-16:30	討議	ディスカッション② 農業インフラ整備と政府・地方自治体の役割	石田 正昭 和田 大輔	三重大学 帯広畜産大学 帯広国際センター

付表3

10/16	火	10:00-12:00	講義	生産者団体の役割（農協による経済事業）	遠藤 広行	JA帯広市川西	JA帯広市川西
		13:00-15:30	見学	農協の販売関連施設～川西長いも調整施設等			
10/17	水	10:00-12:00	講義	生産者団体の役割（農協による信用事業）	加藤 隆	JA帯広市川西	JA帯広市川西
		13:00-15:00	講義	生産者団体の役割（農協による営農指導）			
10/18	木	10:00-12:00	講義	ディスカッション④アクションプラン・プレゼンテーション	佐々木 市夫	帯広畜産大学	帯広国際センター
		13:00-15:00	講義	アクションプラン・プレゼンテーション資料作成(AP提出)			
10/19	金	10:00-12:00		農協事業による生産出荷	細野 武美	細野ファーム	
		14:00-16:00	見学	個人事業による生産出荷			
10/20	土			休日			
10/21	日			休日			
10/22	月	10:00-12:00	講義	生産者団体の役割（農協による食肉加工・マーケティング手法）	丸山 和則	JA士幌町	JA士幌町
		13:00-15:00	講義	食肉加工・出荷施設視察			
10/23	火	10:00-12:00	講義	農畜産物価格および営農にかかわる情報の流れ・種類	樋口 昭則	帯広畜産大学	帯広国際センター
		13:30-16:30	討議	ディスカッション③（市場経済下における生産者団体の役割）			
				稲村 裕文			
10/24	水	10:00-12:00	講義	生産者団体の役割（土壌・肥料・飼料の分析）	柴田 浩之	十勝農協連	十勝農協連農産化学研究所
		14:00-16:00	講義	農業情報システムの役割			
10/25	木	10:00-12:00	講義	農業改良普及センター	広瀬所長	十勝農業改良普及センター	十勝農業改良普及センター
				アクションプラン発表準備			
10/26	金			評価会		国際協力機構帯広国際センター	帯広国際センター
		14:00-16:30		アクションプラン発表会	佐々木 市夫	帯広畜産大学	
				閉講式、閉講パーティ			
10/27	土			帰国			

## 年度別受入実績表

## 1. 応募／選定(受入)人数

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	累計
	名	名	名	名
応募数	男性 11名 女性 6名	男性 4名 女性 7名	男性2名 女性5名	男性 17名 女性 18名
受入数	名	名	名	名
	男性 3名 女性 4名	男性 2名 女性 6名	男性2名 女性5名	男性 7名 女性 15名

## 2. 研修員の出身国

○男性 ●女性

国名	17年度	18年度	19年度	累計
アルバニア	●	●	○	3名
セルビア・モンテネグロ	○○	○●		4名
セルビア			●	1名
マケドニア旧ユーゴスラビア	●	●●	○	4名
モルドバ	●●	○	●	4名
ボスニア・ヘルツェゴビナ		●	●	2名
コソボ	○			1名
ウクライナ		●	●●	3名
計	5ヶ国 7名	6ヶ国 8名	6ヶ国 7名	8ヶ国 22名